自然観察会

平成２６年４月１３日
四季の森　里山研究会

テーマ『春の里山を訪ねて』

- カタクリ　昔むかし　他
- 春の芽吹きと里山の恵み（草木）・食べられる野草・節供・蓬とハハコグサ　他
- 冬にも枯れない「アオキ」の不思議・薬効・青木まりこ現象　他
- ピクニック広場にて歌って「脳トレ」！　他

四季の森に観る草花たち

・ヒメウズ・セリバヒエンソウ・タツナミソウ・トウダイグサ・ニワゼキショウ・カタバミ
・イヌトウバナ・ミヤコグサ・キジムシロ・ミツバツチグリ・タネツケバナ他

四月　清和月　鳥来月　木葉採月　夏初月　卯の花月　花残月　鳥待月

～卯の花の咲く月立ちぬほととぎす　来鳴き響（とよ）めよ含（ふふ）みたりとも～
（万葉集）卯月はサクラが終わり夏の始まる月　山から吹き下りる南風（はえ）が吹く

・清明（せいめい）五日
清浄明潔　空が晴れ渡り、万物みな清々しく生き生きとしてくる
・穀雨（こくう）二十日
穀物の成長を助ける雨　田んぼや畑の準備が整うと、優しい春の雨、穀雨が降り出す
・春土用入り（立夏前の十八日間）
・雷すなわち声を発す「春の雷が鳴り響く」　・虹初めてあらわる
・玄鳥（つばめ）至「ツバメが南から渡る」　・葦（よし）始めて生ず
・鴻雁北にかえる「秋に飛来したガンが北へ帰っていく」　・霜止んで苗いずる

『四季の歌』

作詞・荒木とよひさ　作曲・荒木とよひさ　背景・妙高高原

（一）春を愛する人は　心清き人
スミレの花のような　僕の友達

（二）夏を愛する人は　心強き人
岩を砕く波のような　僕の父親

（三）秋を愛する人は　心深き人
愛を語るハイネのような　僕の恋人

（四）冬を愛する人は　心広き人
根雪を溶かす大地のような　僕の母親

＊次回の自然観察会は５月１１日（日）テーマ『新緑の雑木林を楽しむ』